

第7節 その他構内の調査

1. 経済学部職員2号宿舎フェンス取替工事に伴う確認調査

調査地区 経済学部職員宿舎2号
(山口市水の上町6-9)

調査面積 約1㎡

調査期間 平成17年8月23日

調査担当 田畑直彦

調査結果 山口市水の上町所在の経済学部職員2号宿舎において既設のトタン塀の腐食が著しいことから、新たに編目状フェンスに取り替える工事が計画されたことを受けて、確認調査を実施することになった。

工事はA～Fの6ヶ所について約40cm×40cmの範囲を現地地表下から最大で45cmまで掘削を行うものであった。

調査の結果、A～D地点では、現地地表下約20～32cmまでが表土・造成土、約20～40cmまでが水田耕土、約32～45cmまでが水田床土であった。E地点では、現地地表下約20cmまでが表土、約40cmまでが造成土であったが、底面で明黄褐色(10YR6/6)粘質土を検出した。小面積のため断定はできないが、地山の可能性がある。F地点は全て造成土の範囲内であった。

以上の調査の結果、掘削深度が浅かったこともあり、埋蔵文化財は確認されなかった。

しかし、昭和62年度に実施された下水管改修工事に伴う立会調査では、造成土内から丸瓦片が出土していることから、埋蔵文化財が存在する可能性がある。今後とも掘削を伴う工事にあたっては慎重な対応が必要であろう。

[註]

1) 河村吉行(1987)「第4章第6節2 経済学部職員宿舎下水管改修に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』, 山口

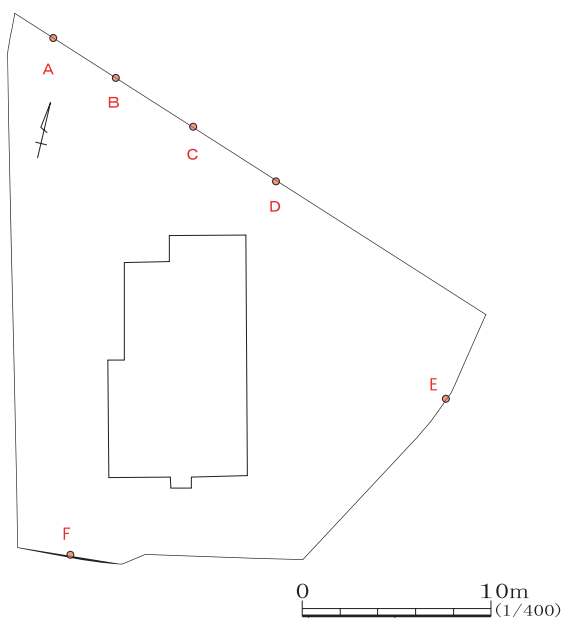


図45 調査区位置図



写真 67 経済学部職員 2 号宿舎全景 (西から)



写真 55 E地点土層断面 (南から)

2. 工学部職員宿舎(尾山)揚水施設改修工事に伴う確認調査

調査地区 工学部職員宿舎(尾山)北西隅空地(宇部市上野中町1-33・34)

調査面積 約15㎡ **調査期間** 平成17年11月14日 **調査担当** 横山成己

調査結果 工学部職員宿舎(尾山宿舎)敷地において、揚水施設の改修工事が計画された。尾山宿舎は、常盤構内の南東方向に近接して位置するが、周知の埋蔵文化財包蔵地としては指定されていない地区である。しかしながら、埋蔵文化財の新規発見も否定できないため、工事掘削時に確認調査を実施することとなった。

配管埋設工事は、宿舎敷地北西部を対象とし、現地表下を約0.85m掘削するものであった。調査の結果、現地表下約0.15mはアスファルトおよび鉋滓が敷設されており、その下位は造成土であった。総延長にして20m以上の管路を調査したが、自然堆積層等は全く確認できなかった。

今回の調査では、尾山宿舎敷地の地下の様相を把握するに至らなかったが、敷地内において今後さらに大規模な地下掘削が計画された場合には、今回と同様調査を実施し、埋蔵文化財の存否を確認する必要がある。



図46 調査地点広域図

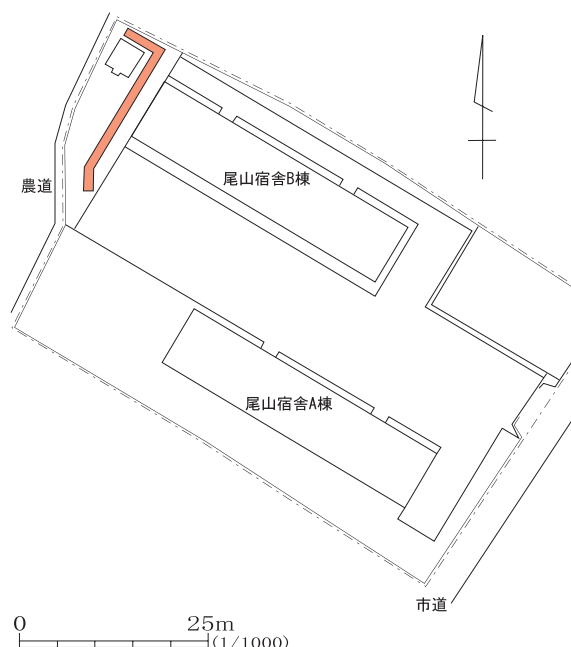


図47 調査区位置図



写真69 調査区全景(北東から)



写真70 調査区土層断面(北西から)